

兵庫県指定重要有形文化財で約300年前に建てられた「大庄屋三木家住宅」(福崎町)の一部が全国初の文化財ホテル「NIPPONIA(ニッポニア)播磨福崎 蔵書の館」として生まれ変わる。民俗学者の柳田国男が幼少期に蔵書を読みふけたエピソードを生かしたホテルのコンセプトは「蔵書を楽しむ」。蔵や離れを改装した5室には約500冊の本が置かれており、古き良き日本の暮らしが営まれていた空間でゆったりとした時間を過ごすことができる。オープンは11月1日。

NIPPONIA 播磨福崎 蔵書の館 11月オープン



地産地消をコンセプトにした料理が提供される。写真は朝食イメージ



堂瀬亮料理長

地産地消、こだわりの食
酒蔵を改装したレストランは、フレンチシェフ坂井をコンセプトに、福崎町産の食材を積極的に取り入れ、地産地消の食を追求する。料理長を務める堂瀬亮氏は、地元産の食材を大切にし、旬の味を生かした料理を提供している。朝食は朝食用意のメニューが並び、お昼からは和洋折衷のメニューが楽しめる。また、個室や個室付の客室も用意されている。



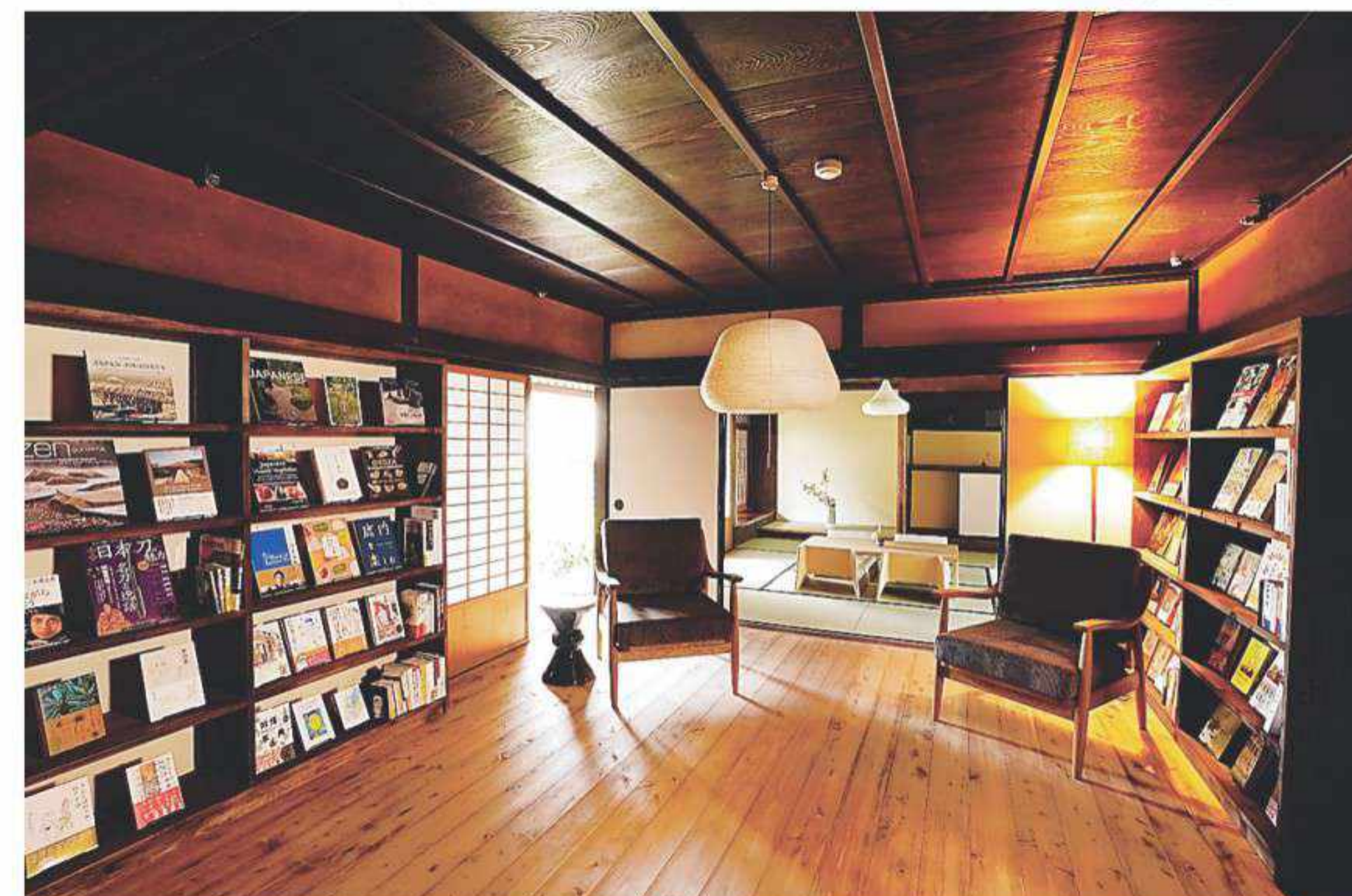
酒蔵をリノベーションしたレストラン

NIPPONIA 播磨福崎 蔵書の館は、「大庄屋三木家住宅」と「旧辻川郵便局」を合わせて全7室。宿泊料金は1泊朝食2食付き、大人2万2千~4万4千円(いずれも税込み。時期やキャンペーンなどにより変動あり)。Go Toトラベルの割引適用可。

神戸新聞読者限定プラン

期間=11月6日~1月末の月・木・金曜日
宿泊(一部除外日あり)
料金=1泊2食付き2万2千~2万5千円(部屋指定なし)
特典=シェフおすすめ1ドリンクサービス
問い合わせ=神戸新聞旅行社 ☎078・362・7174

たくさんの蔵書とともにゆったりとくつろげる「離れ」



今回、ホテルとして整備されたのは6棟。「副屋」「離れ」「内蔵」「角蔵」「米蔵」がそれぞれ客室に、1棟に入った酒蔵と「味噌蔵」は、レストランと厨房スペースに改装された。主屋は、町管理の見学施設で、今後、結婚式などにも活用される予定だ。

副屋や蔵など6棟改修

今回、ホテルとして整備されたのは6棟。「副屋」「離れ」「内蔵」「角蔵」「米蔵」がそれぞれ客室に、1棟に入った酒蔵と「味噌蔵」は、レストランと厨房スペースに改装された。主屋は、町管理の見学施設で、今後、結婚式などにも活用される予定だ。客室のうち最も広い「離れ」には三つの部屋がある。南北の縁側からは庭を望むことができ、かつての日本家屋での日常の暮らしを疑似体験できる。副屋は、当主が書斎として使っていた部屋で、中庭に面している。改装前の整理で見つけた古い文房具や、お茶道具を展示している。米蔵は最も小さい客室だが、天井は最も高く、高さいっぱいの棚に置かれた本が圧巻だ。

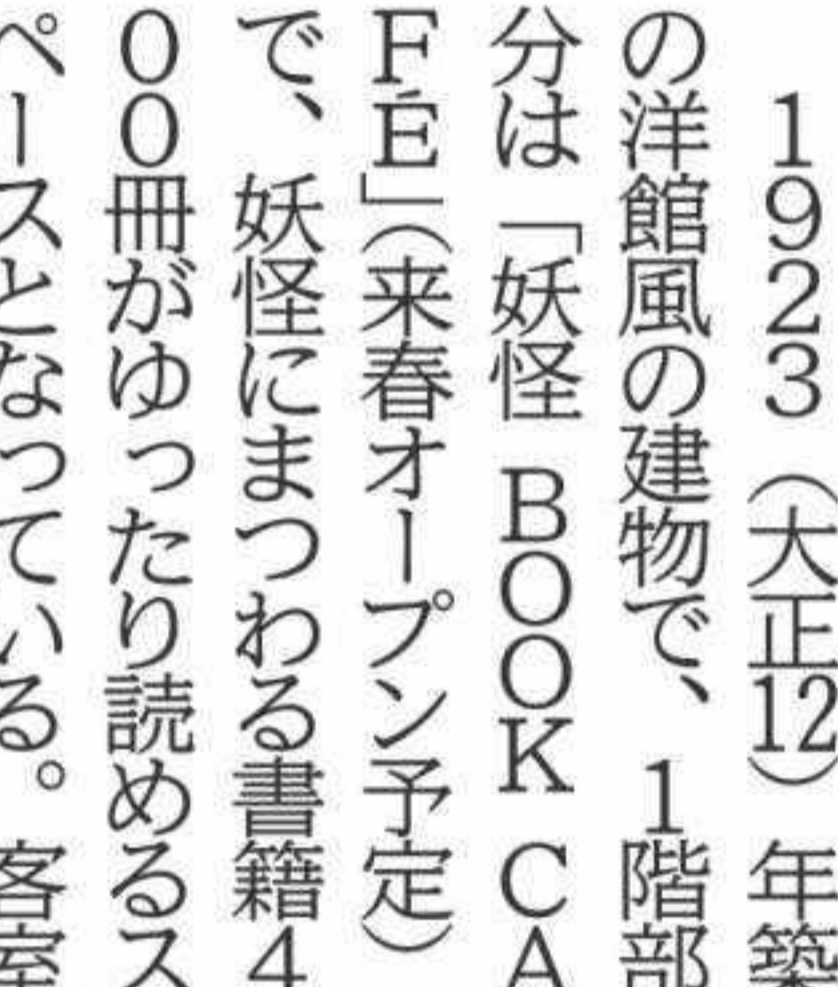
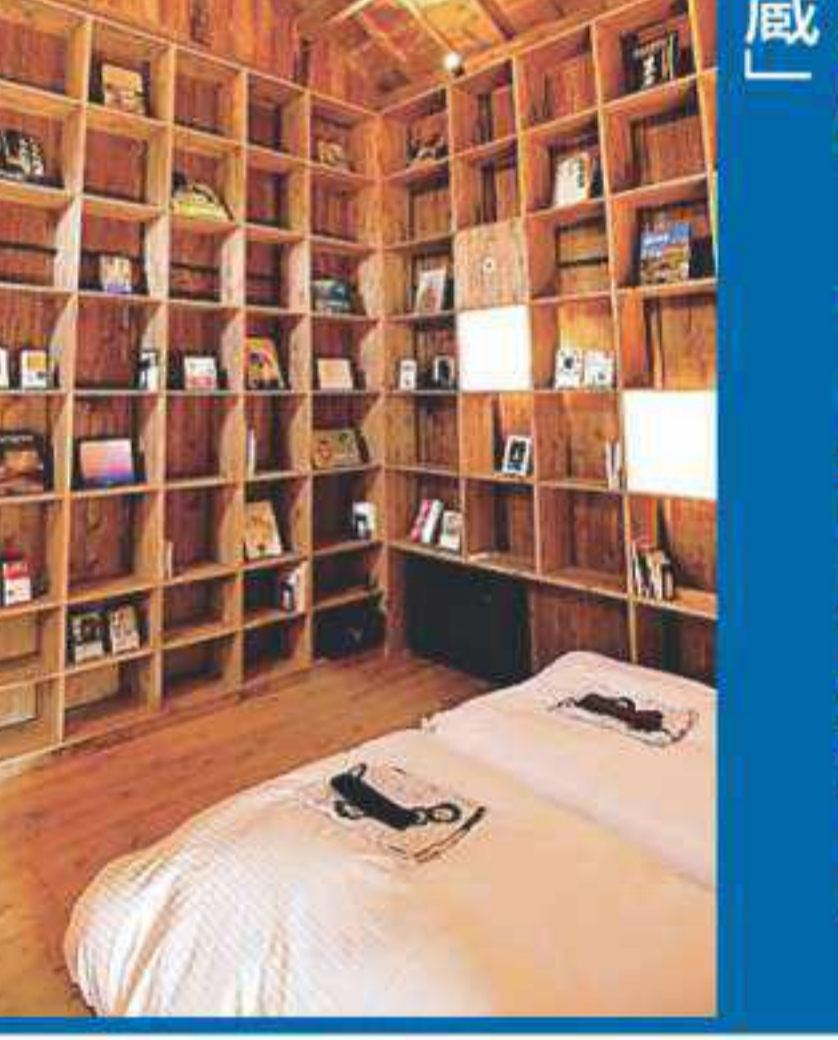
各部屋に配された本は、妖怪や伝統的な暮らし、自然などをテーマにしたものから辞典、図鑑、絵本まで幅広いジャンルがそろっており、本好きにはたまらない空間となりそう。



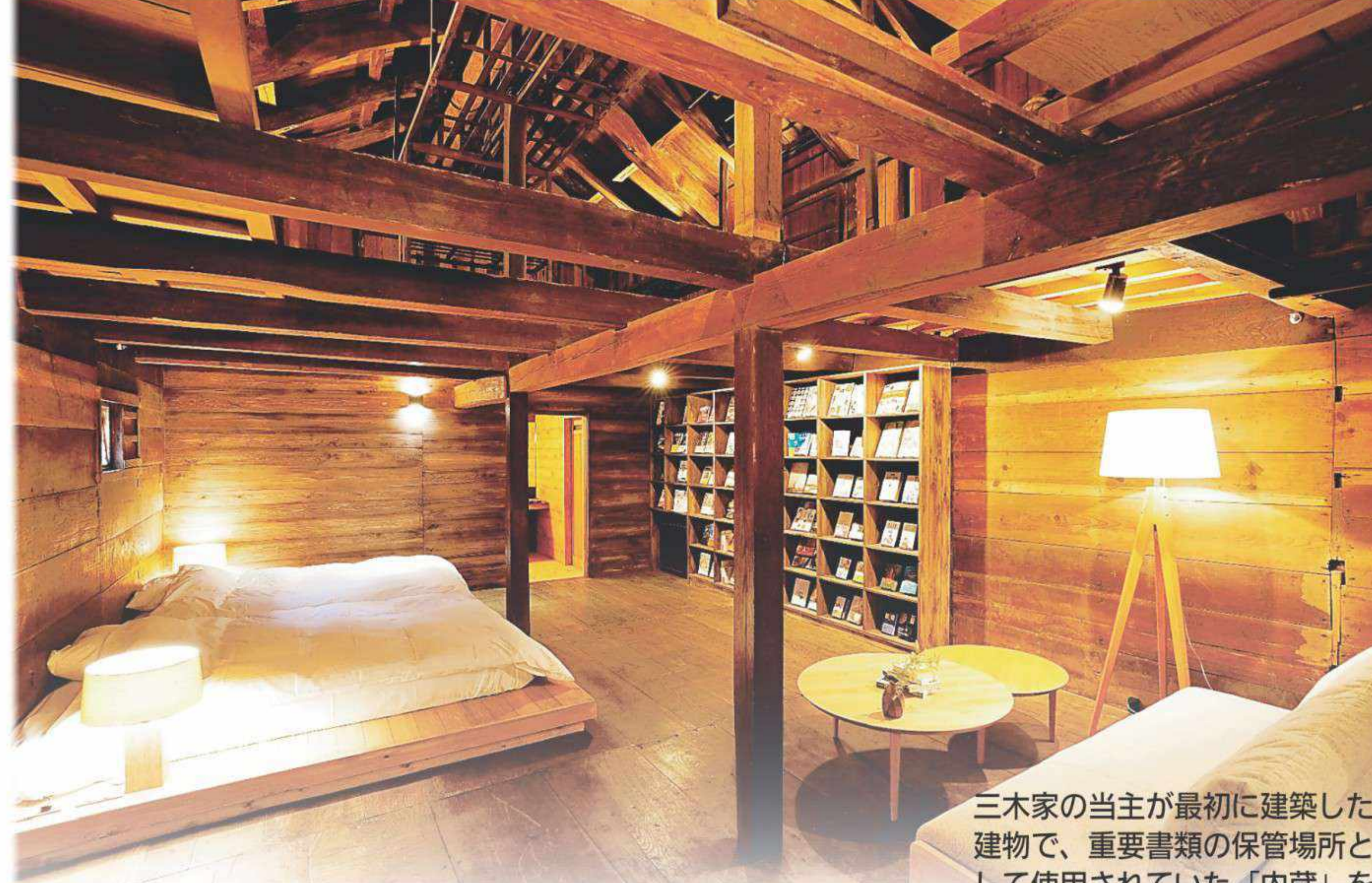
旧辻川郵便局2階の客室

文化財に泊まる

古き良き日本を感じて



どの客室も蔵書が並び、上は中庭に面した「角蔵」、下は高い天井が圧巻の「米蔵」。



三木家の主家が最初に建築した建物で、重要書類の保管場所として使用されていた「内蔵」をリノベーションした客室

近年、妖怪に出合えるまちとして人気を集める福崎町。同町出身で妖怪の研究も行った民俗学者の柳田国男の出身地であることから始まったまちおこしは、いま多くの観光客を呼び込むまでになっている。柳田が11歳の時に1年間預けられたのが三木家で、そこで当主が収集した大量の書物と出合った柳田は著書故

民俗学者 柳田国男ゆかり

郷土年の中で「土蔵風の建物の二階八畳には、多くの蔵書があった。(中略)読み放題に読んだのだが、私の雑学風の基礎はこの一年ばかりの間に形造られたように思う」と記している。三木家にもともと飾置津(現姫路市)に拠点を置いていたが、新田開発を目的に江戸時代初期に当地に移り住んだ。その後大庄屋と

夜間にはライトアップも

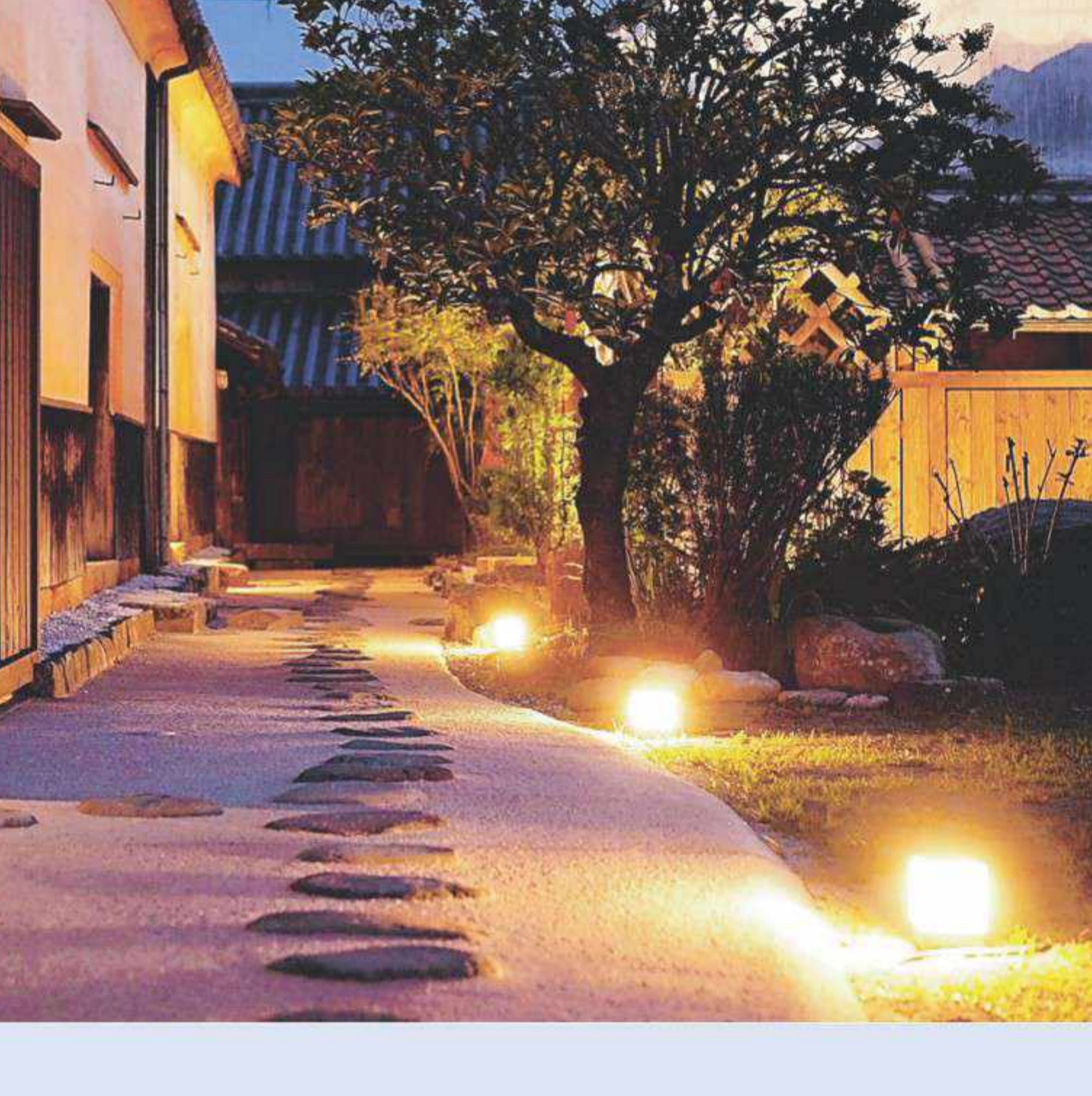
隣接の旧郵便局もホテルに
三木家住宅に隣接する旧「蔵書の館」には、Go Toトラベルキャンペーン「蔵書の館」の一部として、多くの予約が入っている状態だ。川端雅明支配人は、「銀の馬車道」を眺めることができる。

1923(大正12)年築の洋館風の建物で、1階部底しているのはもちろんだが、各客室が独立した建物で構造そのものが感銘対策となり、安心して泊まることができる。古く日本の暮らした思いを巡らせながら、日本ならではの建築美も味わえる。

全国初、ホテルに再生

かつて文化財は保全に重きが置かれていたが、各自治体の財政がひっ迫する中で保全に充てる余力がなくなりつつあるのが現状だ。こうした状況をふまえて、2019年4月に施行された改正文化財保護法では、保全費をまかなうために建物を活用して事業を行うことが可能になった。その趣旨を生かしてホテルに改装された第一号が「蔵書の館」だ。福崎町が所有する建物をまちづくり会社PAGB(ベイジ、福崎町)が改修・管理し、少人数結婚式などに手を付けるレック(神戸市中央区)が受託運営する。

「蔵書の館」には、Go Toトラベルキャンペーン



県指定重要文化財で挙げる、厳かなウエディング

小さな結婚式 播磨福崎古民家ウエディング



挙式のみプラン ●洋装67,000円(税別)~ ●和装85,000円(税別)~

お車で越しの方
中国自動車道「福崎IC」、播但連絡道路「福崎北ランプ」「福崎南ランプ」下車
●大阪から約90km ●岡山から約110km
※駐車場はホテル近隣にございます。

電車でお越しの方
JR山陽本線姫路駅にてJR播但線に乗り換え、「福崎駅」下車 タクシー約10分 ●姫路から約30分
●大阪から約90分 ●岡山から約150分



GO TO TRAVEL CAMPAIGN 対象ホテル ↑詳しくはHPをご覧ください ↓

NIPPONIA 播磨福崎 蔵書の館 2020年11月1日(日) オープン



300年前の建築美を残す、日本初! 指定文化財で宿泊を。

古くは東西と南北が交差する交通の要衝として栄え、豊かな自然の風物に囲まれた福崎町。民俗学者の柳田国男が生まれ、豊かな感性を培った地としても有名です。その町に日本初、県指定重要文化財を宿泊施設として再構築したのが「NIPPONIA 播磨福崎 蔵書の館」。じっと耳を澄ませば、山あいから、川辺から、人々の営みの隙間から「人ならざるもの」の囁きが聞こえてくる。300年前の建築物と蔵書に囲まれた非日常的な空間で、ここでしか味わえない空間で貴重な時間を過ごしませんか。